



未来に伝える富岡製糸場の歴史
～発掘調査からみた富岡製糸場の歴史～

サテライト会場：富岡市社会教育館
平成27年12月4日～20日

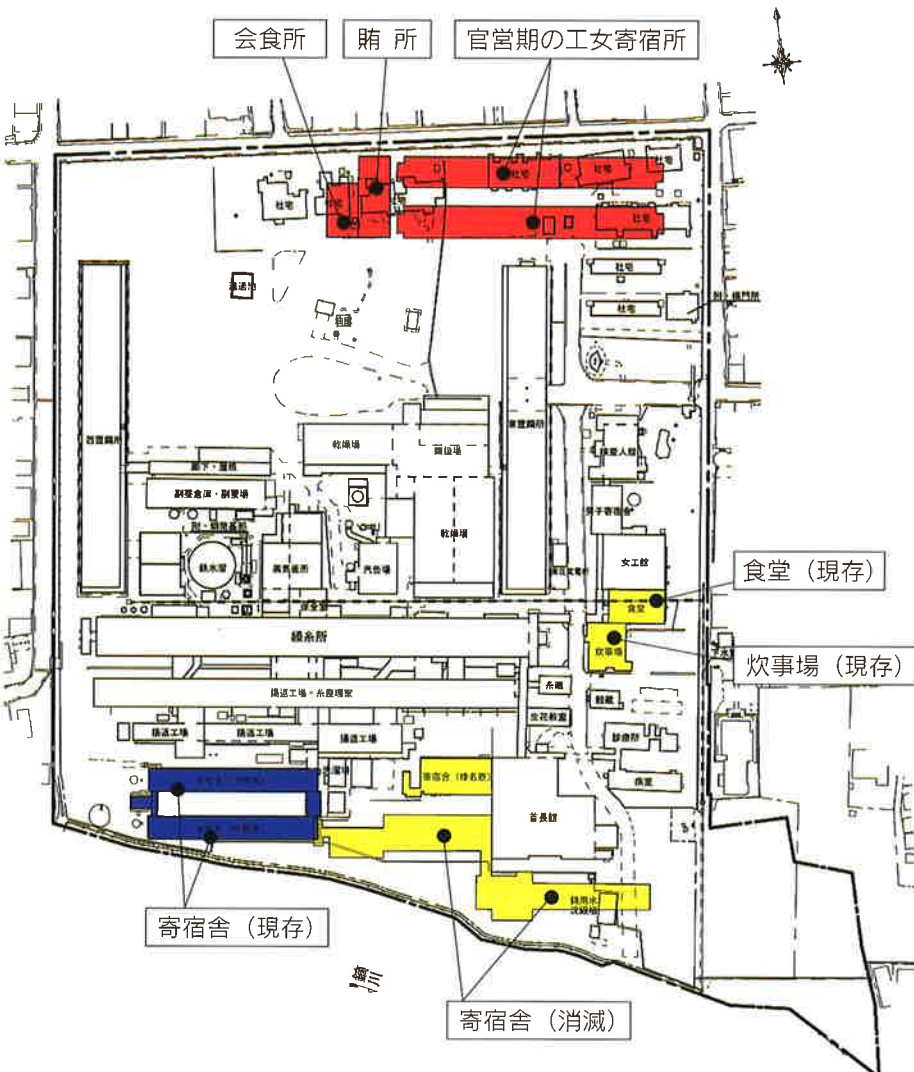
遺物からみた工女のくらし展

富岡製糸場は明治5年（1872）に操業開始した官営模範製糸工場で、明治26年の民営後も一貫して製糸工場として生糸を生産し、昭和62年（1987）に操業を停止しました。繰糸作業の労働に当たったのは主に女性で、工女と呼ばれました。今回の展示では、工女たちが使った食器類や灯火具、化粧品などの遺物をご覧いただき、工女たちのくらしの一端をご紹介します。

工女が暮らした生活施設

1. 寄宿舍

創業当初、工女のための寄宿舍が東置繭所の北側に木造2階建てで2棟並列して建てられました。この建物は明治5年7月に完成した「工女寄宿舍」で、2棟合わせて6畳の部屋が116室あり、一室あたり3～5人の工女が暮らしていました。民営化後の明治29年には老朽化した寄宿舍は解体され、首長館西側に新たに寄宿舍が建設されました。この付近では明治から昭和にかけて寄宿舍が建てられました。現存する建物は榛名寮（首長館に隣接している建物）と敷地南西に昭和15年に建てられた2棟並列している浅間寮、妙義寮です。



2. 賄所・会食所（炊事場・食堂）

当初の寄宿舍西側には賄所が建てられました。明治6年11月には賄所の西側に会食所が設けられました。和田英（明治6年入場）が著した「富岡日記」に当初は自室でそれぞれ食事していたものが、会食所の完成により大食堂での食事になったことが書かれています。明治29年に寄宿舍が首長館付近に移ると食堂も移動しました。大正12年には女工館南に食堂と併せて炊事場が新設され、現存しています。

赤…官営期 (M5～26)

黄色…三井～原期 (M26～S14)

青…片倉期 (S14～)

【いずれも建築時期】



明治5年建設の工女寄宿所

画面左側の木造2階建ての建物が工女寄宿所。手前が賄所と思われる。右側は現存する国宝東置藪所。

東京国立博物館蔵

工女の使った道具など

1. 食器

官営当初は磁器の手書き染付碗、陶器の皿などが使われていたと思われます。「富岡日記」にも食堂に自分の碗と箸を持って行ったとの記述がありますので、恐らく持参したか製糸場に工女として入る際に購入したものと考えられます。陶器の皿はおかずを盛りつけるために賄所扱いだったと考えられます。汁物はあったのでしょうか。漆器の類はいまのところ出土していません。また、出土品に土瓶（急須）はありますが、この時期の湯飲みはほとんど見られないため、ご飯を食べたあとに飯椀へ入れて飲んだ習慣も考えられます。

昭和14年から片倉製糸紡績株式会社に経営が移りますが、戦前から戦後頃まで使われたと考えられるのが片倉の社印である「⊕」が入った碗や皿です。そのほとんどにはクロム釉の2条線が口縁部に入るのが特徴で、国民食器あるいは工場食器といわれます。この頃には碗は個人持ちではなく炊事場で保管されていたと考えられます。

2. 灯火具

明治5年の操業開始から大正8年の電化頃まで、富岡製糸場内の灯火には様々なものが使われていたと思われ、官営期の工女寄宿所の灯りとして考えられるのが灯明皿です。皿に油を満たして灯心を入れ火を灯すのですが、油が芯から垂れるので受け皿が必要となります。工女寄宿所跡付近では両方出土しています。室内では恐らく周りが囲われた行灯^{あんどん}として置かれたと思われ、今のところ確証はありません。

3. 化粧品容器など

①紅 皿

出土品のなかには高台の小さな小皿がありました。この小皿の内側に紅を塗りつけて乾燥しないように伏せて置いておくのが紅皿です。使うときは裏返して手に持って筆などで紅を唇に付けました。紅猪口ともいいます。展示品の小皿の製作年代は明治前期頃と考えられ、工女寄宿所跡付近から出土しました。

②ガラス瓶

化粧品のガラス瓶には、クリームなどが入っていたもの、化粧水などが入っていたものに大きく分けられます。クリームなどが入っていた瓶は不透明で白色のものが多く、化粧水などが入っていた瓶は透明～半透明が多く、白色、薄桃色、紫色など色も様々です。ラベルはほぼ残っていませんでしたが、瓶の側面や底面などにメーカー名や商品名が型押しされているものもありました。年代は大正時代から戦前～戦後、昭和62年の操業停止少し前の年代ものまで出土しています。出土位置は敷地南側の崖付近からが多く、寄宿舎が首長館（ブリューナ館）の付近に何棟も建てられてからの時期に使われたとみられます。



平成27年度文化庁文化芸術振興費補助金（文化遺産を活かした地域活性化事業）

主 催：富岡市世界文化遺産活性化事業実行委員会

事務局：富岡市教育委員会文化財保護課